

\* 日本語用論学会 第21回大会 プログラム速報版 \*  
 Program of the 21st Annual Meeting of the Pragmatics Society of Japan 2018  
 First Circular

【日時】 2018年12月1日(土)・2日(日)  
 【場所】 杏林大学 井の頭キャンパス

December 1st and 2nd, 2018  
 Kyorin University, Inokashira Campus

大会参加費 registration fees  
 会員 members : 2,000 円  
 非会員 non-members : 3,000 円

<< 12月1日(土) >>			
	口頭発表 Oral presentations 第1室 F303		ワークショップ Workshops 第2室 F309
10:00 └ 10:35	アメリカ英語の談話における like の出現 塚本亜美 (新居浜工業高等専門学校)	10:00 └ 11:55	『相互行為』と語用論：社会的関係の動的性質に関する実践研究と教育への応用 竹田らら (東京電機大学)、小川洋介 (神戸大学)、種市瑛 (横浜市立大学)、田辺和子 (日本女子大学)
10:40 └ 11:15	英語指示詞の非制限的用法について 孟鷹 (名古屋大学院生)		第3室 F310 発話のはじめと終わり ～多様化する語用論的機能～ 尾谷昌則 (法政大学)、大山隆子 (北海道大学院生)、沈雪君 (法政大学院生)
11:20 └ 11:55	段落末における which speaking of の諸特徴と機能 山内昇 (大同大学)		

11:30	受付開始 Registration			
	口頭発表 Oral presentations 第1室 F303	第2室 F309	第3室 F310	第4室 F311
12:00 └ 12:35	日本語の自他交替：協調の原理の観点から 前田宏太郎 (東京大学院生)	<del>Contrastive analysis of linguistic choices in regulative speech acts: the case of English and Japanese legal terms and policies Sonya CHIK (graduate student, the Hong Kong Polytechnic University)</del>	日中語母語話者の「否定的評価」に関する対照研究—談話完成テストの分析を中心に— 儲葉明 (筑波大学院生)	相互行為場面の研究で用いられる指示詞の記述—分野間の交流を目指して— 平田未季 (北海道大学)
12:40 └ 13:15	ケド文の多義性の構造：「対比」および「参考情報の提示」を両極とする連続体モデル 水田洋子 (国際基督教大学)	<del>Sequential Incoherency in English Conversation: Focusing on the Appendor Question Sally JONES (graduate student, Nagoya University)</del>	断り発話の構成要素に関する日中対照研究—認知とポライトネスの接点から 高揚 (筑波大学院生)	引用動詞の省略に関する一考察—省略から文法化へ 尹盛熙 (関西学院大学)
13:20 └ 13:55	直後の行為を拘束する発話行為—終助詞・ネのふるまひの変化を例に— 春日悠生 (京都大学院生)	Rapport Management in Apologizing: From English Speech Acts Corpora Toshihiko SUZUKI (Waseda University), Ami SATO (Otaru University of Commerce)	発話中の聞き手指示方法の選択に関する語用論的分析—「あなた」と「固有名詞」との選択を中心に— 都賢娥 (北海道大学院生)	インターネットスラングにおける意味変化—新規表現「耐え」を中心に— 林智昭 (近畿大学)、松浦光 (横浜国立大学)
14:00 └ 14:35	バラエティ番組の出演者のイメージ構築を図る表現行動の研究—沢尻エリカ氏は本当にいい人になったのか— 金載勲 (大阪大学院生)	Please smile when you nod: The use of smile in backchannel sequences Saya IKE (Sugiyama Jogakuen University), Jean MULDER (University of Melbourne)	呼びかけと項の連続性—落語に見られる対称人称詞を例に— 東出朋 (国立釜慶大学)	メディアなどで見られる拡張的な連体修飾表現の分析：主観性と問主観性の観点から 神澤克徳 (京都工芸繊維大学)

この発表は、発表者のやむを得ない事情によりキャンセルとなりました。

サロン  
語用論茶寮  
14:00~15:35

	ポスター発表 Poster presentations F棟3階ロビー					サロン 語用論茶寮
14:35 └ 15:35	Figurative Expressions は連鎖の中でどう使われるか—話題転換における役割— 木野緑 (早稲田大学ほか)	日本人はどのようにユーモアを語るか—「わたしのちょっと面白い話コンテスト」からみた語り構造— 張洋子 (東京外国語大学院生)	日本語の雑談における物語の談話構造 張末末 (早稲田大学院生)	「虚辞 + COME」存在文の類型論的調査—動詞にかかる制限と意味上の主語の意味タイプの関連性に関して— 三野貴志、芝田思郎、服部拓哉 (大阪大学院生)	プロトタイプ義と語用の意味対称 西内沙恵 (国立国語研究所)	人はことばによっていかに傷つくか—ディスコーダンスの観点から 中川佳保 (大阪大学院生)
15:45 └ 16:05	会員総会 Business meeting F309					
16:10 └ 17:40	招待講演：伝康晴氏 (千葉大学/国立国語研究所) Plenary lecture: Dr. DEN Yasuharu (Chiba University / NINJAL) 「伝達意図とアドレス性 (仮題)」 F309					
17:50~	懇親会 Conference Banquet					

<<12月2日(日)>>					
9:20	受付開始 Registration				
	口頭発表 Oral presentations 第1室 F303	第2室 F309	第3室 F310	第4室 F311	
9:50 } 10:25	‘—p, I (don’t) {think/believe}’ における挿入節 I (don’t) {think/believe}の語用論的機能 森貞 (国立福井工業高等専門学校)	Onomatopoeia, Telop and Relevance: Making meaning more determinate Ryoko SASAMOTO (Dublin City University)	共同発話に見る日本語母語 話者の「言語ホスト性」— 接触場面における三者間課 題達成談話の分析から— ツォイ・エカテリーナ (東 洋大学)	会話で諷諭を使う二つの方 法 平川裕己 (神戸市外国語大 大学院生)	
10:30 } 11:05	表意に貢献しない概念：the other way (a)round の場合 黒川尚彦 (大阪工業大学)	The Cultural Construction of the Self Affecting Figure- Ground Reversal Yusuke SUGAYA (Mie University)	会話におけるトラブルの責 任の所在を示す相互行為的 ストラテジー—他者開始・ 自己実行の修復で利用され る「だから」を例に— 中馬隼人 (名古屋大学院 生)	《賞賛》が「マウンティン グ」として作用する条件 市川真未 (創価大学)	
11:10 } 11:45	糖尿病にみる多様な想定に 対応した臨床での説明— 関連性理論の観点から— 神田千春 (上武大学/群馬 大学)	社会的迷惑行為の認知と注 意行動に対する背景諸要因 —社会的合意と日本語学習 による逆行転移に着目して— 林炫情 (山口県立大学)、 玉岡賀津雄 (名古屋大 学)、ジャミラ・モハマド (マラヤ大学)	疑問表現に対する疑問表現 での応答をめぐる語用論的 考察 馬穎瑞 (重慶大学外国語学 院)	英語母語話者と日本人英語 学習者の要求談話の対照分 析—返金、返品・交換をめ ぐるロールプレイを資料と して— 山本綾 (昭和女子大学)	サロン <b>語用論茶寮</b> 11:10~12:45
11:45 } 12:45	昼食休憩 Lunch				
12:45 } 17:00	第1回語用論グランプリ! F309 ファースト・ステージ A (12:45~14:15) 大堀壽夫 (慶應義塾大学)、椎名美智 (法政大学)、西阪仰 (千葉大学) ファースト・ステージ B (14:20~15:50) 井上逸兵 (慶應義塾大学)、西田光一 (山口県立大学)、松井智子 (東京学芸大学) ファイナル・ステージ (15:55~17:00) 実況：鍋島弘治朗 (関西大学)、解説：滝浦真人 (放送大学) レポーター：尾谷昌則 (法政大学)、秦かおり (大阪大学)				
17:00 } 17:10	閉会のあいさつ Concluding remarks				